

◎ラップ東京では、皆様のお役に立てるような様々な内容のコラムを発信しています。バックナンバーは [www.raptokyo.co.jp](http://www.raptokyo.co.jp) から

## 「送りバント」

今月もスポーツの話題でスタートします。今度は野球。夏の甲子園は第100回目を迎えてより一層盛り上がりつつあります。高校野球といえば、選手の全力プレーが人々を魅了し、そして涙もつきものです。プロとは一味違う、一生懸命さが伝わってきます。

野球をやっていた頃、監督から「先頭打者は必ず塁に出ろ!」と言われていました。今でも耳に残っています。ノーアウトでランナーにでたら、監督のサインは「送りバント」です。いわゆる犠打、自分が犠牲になって二塁にランナーを進め、次のバッターに期待する戦術は野球の王道。高校野球では特に先取点が非常に重要なので当然といえば当然です。そんなイメージを持っていた送りバントですが、先日新聞で、ある野球部の興味深い記事を見つけた。

その野球部では、ノーアウトでランナーが出て、バントは極力しないというのです。積極的にバッティングさせるため、というのが理由のひとつ。そしてもう一つは、バントをする子に重圧がかかりすぎてしまうからだそうです。ひとつの失敗で流れが変わってしまうことがある野球、すべての責任はみんな背負い、それぞれの選手が一球ごとに考え、積極的に打たせることのほうが現在の子どもたちの力を引き出せるのではないか、というのです。この記事を読んで、この監督の考えと実行力に驚きました。本来の力を出し切り、選手が楽しくそして気持ちよくやりきることで、それが最も大切なことではないかと感じます。バントは積極的にしない、そのかわり一日千本以上の素振り、練習の多くを打撃練習にあて、冬場はそれぞれの選手が自分にノルマを課して練習しているそうです。勝つという目的に向かって監督と選手の関係が

ちゃんと出来上がっているような気がしました。ある意味、野球も仕事もチームプレー。勝ち残っていく(生き残っていく)という意味では、同様かも知れません。

話はそれますが自分が野球をやっていた頃は、しごきや苦しい練習ばかりで、暑い夏も「水は飲むなよ!」と言われたものでした。今から思えば、野球をやるというより、基礎体力を作ってきたような気がします。会社に入ってから、月々のノルマ、訪問活動などに追われ営業していました。このときは、精神面の基礎力を作っていたのかもしれない。野球の頃、社会人の頃、共通して言えるのは、自分の判断で進むというより、先輩や上司に言われたことをただ夢中で、ひたすら達成できるようにやっていただけでしたが、それはそれでよい経験だと思います。

それぞれが自分なりに判断し、積極的に仕事をするということは、みんなのレベルがある一定以上でないとうまく回りません。「練習」が基礎となり、「失敗」を繰り返して、周囲の人との信頼関係が生まれることで出来上がっていくのではないかと思います。人はわがままで考え方や受け止め方も異なりますが、個々が最大限の力を発揮することができている、いわゆる最高のチームを作り上げることがいっつかはできるのだろうか? 考えさせられました。とにかく、ノーアウトランナー一塁の場面。バントでも、バッティングでもいいので、次の打者つなげられるよう今日も練習を積んでいくしかなさそうです。

### ご案内

## 簡単更新くん

- ・商品やサービス情報をとにかく早く更新したい
- ・臨時休業のお知らせや急なスケジュールの変更などをいまずぐ掲載したい
- ・更新頻度が高いので、更新を自社で行いたい

そんな貴社におすすめです!

詳細は

ラップ東京株式会社

TEL:042-349-3535 (担当: 田島)

※ラップニュース バックナンバーはホームページからご覧いただけます。

※ アンケートがありますのでよろしかったら、ご意見をお聞かせください。